

札幌市立宮の森中学校 視察報告書



- 1 期 日 平成27年8月20日(木)
- 2 参加者 旭川市立神居中学校 教諭 岸 和宏
(小中連携教育コーディネーター)
- 3 タイムテーブル
 - 9:30 札幌市立宮の森中学校着
 - 9:35 小中連携事業の取組の概要について
 - 10:10 体験授業(英語科)参観(児童;札幌市立三角山小学校 6年生)
 - 11:00 学校見学・部活動体験 参観
 - 12:00 昼食・休憩
 - 12:45 札幌市立盤溪小学校へ移動
 - 13:00 学校概要について
 - 13:10 体験授業(英語科)参観(児童;札幌市立盤溪小学校 6年生)
 - 14:30 札幌市立盤溪小学校発

4 札幌市の小中連携について

札幌市では、「札幌市学校教育の重点」に基づき、各学校がそれぞれの実情に応じて連携教育に取り組んでいる。

具体的には、小学校6年生の子どもが中学校で英語の授業や部活動を体験したり、中学校の合唱部の生徒が小学校に出向き、日ごろの練習の成果を披露したりするなどの授業体験等や、教員間の情報交流などに取り組み、各学校の工夫により様々な実践が進められている。

札幌市研究開発事業においては、「小中連携」に関する実践研究で、平成22年度から中学校1校と小学校2校の計3校の研究推進校において「研究推進会議」を開催し、小中連携の在り方について検討しながら、教育課程や児童生徒理解等にかかわる実践的研究を行っている。

(札幌市教育委員会ホームページより)

5 札幌市立宮の森中学校について

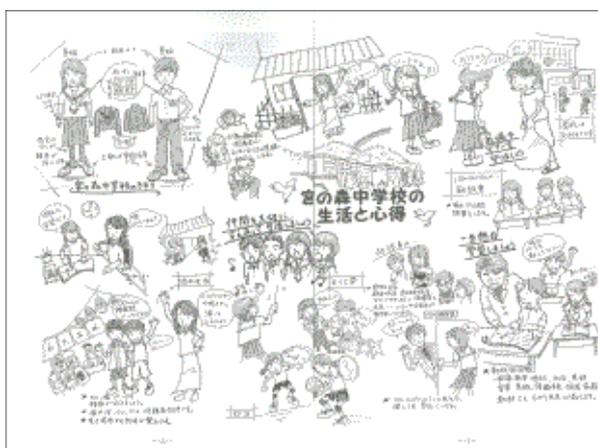
札幌市立宮の森中学校は、今年で開校30周年を迎える。地域は、閑静な住宅街を中心として、盤渓スキー場や商業施設などがあり、活気に満ちている。保護者の職業は、医者、弁護士、実業家、芸術家、会社員、公務員など多彩である。

PTA活動が盛んで、保護者が中心となり「ガイドブック ようこそ宮の森中学校へ」という冊子を発行している。内容は、宮中ガイドブックの活用にあたって、学校教育目標、校歌、校地図、イラスト仕立ての生活の心得、コメント入りの日課表、担任の先生の1日、日直の仕事、日直さんの学級日誌紹介、朝読書（先生のエッセー）、楽しい給食、生徒の給食風景、給食配膳員さんの1日、事務職員さんの多忙な1日、業務吏員さんの多忙な1日、知っておきたい費用、転校・日本スポーツ振興センター・就学援助、校長先生の1日、校舎平面図、保健室（メッセージ）、保健室の窓、校医さん、養護（保健室）の先生の1日、特別支援学級、いろいろな教室（特別教室の説明）、心の相談室、学校行事について（11ページ）、学習について（16ページ）、高校受験向け情報（4ページ）、生徒の活動（6ページ）、部活動（12ページ）、PTAの活動（8ページ）、安心して学校生活を送るために（7ページ）、地域との交流（8ページ）、中学校の歴史、宮の森中学校の皆さんへ（卒業生の保護者からのメッセージ）、などです。

五十嵐教諭のお話では、保護者の中にイラストレーターの方や美術大学卒の方がいて、イラストやマンガなど多彩な冊子になっていて、いわゆる中1ギャップの解消に役立っている。札幌市内でもこのような取組をしている学校はまれであるとのこと。

また、地域には、芸能人やスポーツ選手、陶芸家なども多数住んでいて、生徒もバイオリンやバレーを習っているなど珍しくなく、ピアノが弾ける生徒も学級に何人もいる。生徒は約350名で、札幌市内でも学力が極めて高い地域であるとのこと。

担任の先生の一 日		
時刻	時間	内容
6:20	起床	・朝刊に目を通しながら、朝食をとる。 ・身支度する。
7:30	出勤	・家を出る。 ・出勤途中の時間に、頭は仕事モードに切り替わる。
8:10	出勤	・グラウンドでは朝練習の部活の声。（朝練習は7:30から）宮の森の朝と空気が心地よく迎えてくれる。 ・教室へ行き異常がないかチェック。窓を開けて換気、早く登校している生徒とあいさつを交わす。
8:20	日直打ち合わせ	・日直と1日の打ち合わせ。今日の予定や配布物の確認。今日の目標を決める。
8:25	職員打ち合わせ	・全体で連絡を確認、教師間で共通理解すべきことが連絡される。その後、学年ごとに生徒への指導事項や最近の生徒の様子について交流。
8:30	教室へ	・8割程度の生徒が登校している。生徒の登校の様子を観察しながら、声をかける。提出物を回収。
8:40	朝読書	・生徒と一緒に読書。落ち着いた1日の始まり。
8:50	朝の学活	・日直が宿に出て同会。出席確認。連絡事項を伝え、1日の励ましの言葉をかける。健康観察も大切な仕事。
8:55	職員室へ	・欠席連絡のない生徒の家庭へ確認の電話連絡をする。 ・急いで1時間目の授業へ向かう。
9:00	1時間	・1年1組 数学
9:50	休み時間	・教科連絡の生徒に今日の授業の評価と次回を持ち物、宿題を伝える。 ・授業で疑問が残った生徒が質問してくることもある。 ・廊下で生徒の休み時間の様子を観察。 ・次の授業の教室へ向かう。
10:00	2時間	・2年2組 数学 Team-Teaching
10:50	休み時間	・生徒の席を回りながら、疑問に答えたり、さらに難しい問題を与えたり……。 ・次の時間は空き時間なので、学年の廊下で生徒の様子を観察する。2分前には、廊下で授業の準備をするように声をかける。
11:00	3時間	・授業のない「空き時間」は朝の回収物のチェック、教科の小テストの採点、授業の準備を行う貴重な時間。
11:50	休み時間	・次の授業の学級へ向かう。
12:00	4時間	・1年2組 数学
12:50	給食準備	・職員室へ授業の荷物をおく、手を洗って教室へ。廊下で手洗いの生徒に声をかけ、給食当番の配膳を手伝う。
13:05	給食	・やっと給食、いつも温かくおいしい給食が食べられるのは幸せなことです。
13:25	昼休み	・給食の後かたづけをチェックしたあと、教室や廊下で生徒の様子を観察。 ・体育館が使える日は、子どもたちの遊ぶ様子を見に行くこともあります。 ・気がなななななな。教育相談を行うこともあります。
13:45	予鈴	・5時間目の授業の教室へ。
13:50	5時間	・1年3組 Team-Teaching ・各学年とも週に2時間は Team-Teaching。
14:40	休み時間	・職員室へもどり、連絡帳で連絡事項の確認をし、学級連絡帳が空になっているのを確認してから教室内へ。
14:45	帰り学活	・今日1日の評価と、明日への励ましをし、「さようなら」
14:55	教室掃除	・当番の生徒と一緒に清掃活動。
15:15	放課後	・生徒を下校させて、職員室へ。
15:30	評会議	・学年の会議や校務の会議、職員会議など、生徒の委員会指導が入ることもあります。 ・文化祭前などは部門別の活動が16:40まで入ることも。
17:00	部活動	・会議が長引くことも多いのですが、部活動の指導へ。
18:45	部活動終了	・やっと職員室へ。残務整理と、明日の授業の準備。
19:30	運動	・外は真っ暗、夜のひんやりとした空気が1日の疲れを癒してくれる。
20:00	帰宅	・夕食をとり、入浴。 ・ささやかな家族との団圓。 ・学校でやり残した仕事を持ち帰ることもよくあります。
23:00	就寝	・おやすみなさい。



6 札幌市立宮の森中学校における小中連携について

宮の森中学校では、小学校の「総合的な学習の時間」における国際理解に関わり、外国語活動が位置付けられるに当たり、英語科の五十嵐教諭が中心となって、平成18年からいろいろな形で小中連携に取り組んできた。

現在では、8月20日ごろに体験授業（英語科）、部活動見学など、1月15日ごろに授業見学（全学級）を行っている。札幌市では、中学校は夏休みが30日、冬休みが20日、小学校は夏休みが25日、冬休みが25日という日数になっていて、宮の森中学校が夏季休業の日に小学生の体験授業、校区内の3小学校が冬季休業の日に中学生の授業見学を行うようにしている。

校務分掌では、教務部に「小中連携係」を設け、現在は再任用の五十嵐教諭がその業務を担い、小学校との連携の窓口になっている。

五十嵐教諭は、英語科教師としての専門性を発揮して、英語科（外国語活動）の体験授業や出前授業を積極的に行うとともに、北海道教育大学札幌校や教科書の出版社である開隆堂とも連携して教材開発に取り組んでいる。

また、宮の森中学校には英語科教諭が3名、ALTも通年配置でのベース校となっており、今回の体験授業は、ALT2名がJTEとのTTで指導にあたる計画であった。

7 体験授業（英語科）について

(1) 題材名「ウッド先生がやってきた」

SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 Program 3-(2) page ; 32～33

(2) 本時のねらい

- ① 題材 一般動詞を使って対話する。
- ② 言語 “Do you ～?” の疑問文とその答え方を理解し、対話できる。

(3) 本時の展開

<導入>

- ① 挨拶
- ② ウォームアップ Criss-Cross ですばやく答える。

<展開>

- ③ Do you eat/ drink ～? の導入
- ④ Do you eat/ drink ～? の習得
会話練習を行う
- ⑤ 会話した成果を確かめる。
- ⑥ 教科書本文の導入
- ⑦ 書く活動
- ⑧ まとめの自己評価
- ⑨ 挨拶



【五十嵐教諭と黒谷教諭の授業】

三角山小学校の第6学年児童（2学級52名）は、いずれも集中力があり、先生の説明を真剣に聞いて正しく答えようとする姿が印象的だった。



【渡部教諭とラン先生の授業】



【盤溪小の授業】

盤溪小学校の第6学年児童（18名）は、元気がよく、受け答えがしっかりしている姿が印象的だった。

盤溪小学校の教頭先生のお話では、盤溪小学校は特認校で札幌市内のどこからでも入学することができる。現在は、第1学年の定員が20名のところ、60名程度が入学を希望する状態となっており、入学児童を抽選で選抜している。6年間路線バスで通学するという大変さはあるが、1学年20名という少人数指導、盤溪スキー場が目の前にあるという条件を生かしたスキー指導（頻繁にプロ・スキーヤーが来校される）などに特色があり、おもに宮の森や円山からの入学希望者が多く、保護者同士が仲良く団結しているとのことであった。

体験授業の内容については、視察者自身が英語は専門外なので詳しいことは分からないが、量が多い印象をもった。児童の集中力を高めるため、フラッシュカードや写真を使って児童が学習内容をイメージしやすくしたり、ゲームの要素を取り入れて学習意欲を喚起したり、コミュニケーション活動を取り入れたりしていた。

体験授業終了後、数名の児童が「小学校の外国語活動では、話したり聞いたりする活動が中心だが、中学校では書いたり読んだり覚えたりすることが多くなってくることが分かった。」「いろいろなことを勉強したが、50分があつという間で、楽しかった。」



【黒谷教諭とジャック先生】

などと感想を述べる姿は大変微笑ましかった。

8 所感

札幌市立宮の森中学校では、中1ギャップをなくそうとするのではなく「中1ステップ」と呼んで、小学校6年生が少しでも早く宮の森中学校の生徒として活躍できることを目的とし、小中連携を1つの手段として捉えていることに注目したい。そして、小中連携事業として、夏休み中に、三角山小学校、大倉山小学校、盤溪小学校の6年生を対象に英語の授業体験と部活動の見学の実施、冬休みには小学校の先生との授業交流やPTA同士の交流、3学期には中学校1年生による小学校訪問を実施している。

また、五十嵐教諭が体験授業の指導略案を作成するとともに、英語科の先生方のとりまとめ役を担い、ALTや各小学校との打ち合わせなど、まさに中心となって活躍している様子が印象的だった。

神居中校区では、中1ギャップについては、新入生の多くは、入学後、次第に中学校に適応しているが、一部には、教科担任制による授業や複数の小学校から生徒が集まることによる新しい人間関係づくりなど、慣れるのに時間のかかる生徒も見られる状況がある。

今後とも、先行実践等を参考にしながら、より一層“相互授業参観”，“乗り入れ授業”，“小中連携懇談会”などの学習指導に関する取組や，“ゴミ拾いクリーン作戦”，“交流授業”などの児童生徒の交流の取組を工夫して、『小・中学校の円滑な接続による「生きる力」の育成』を目指して参りたい。